

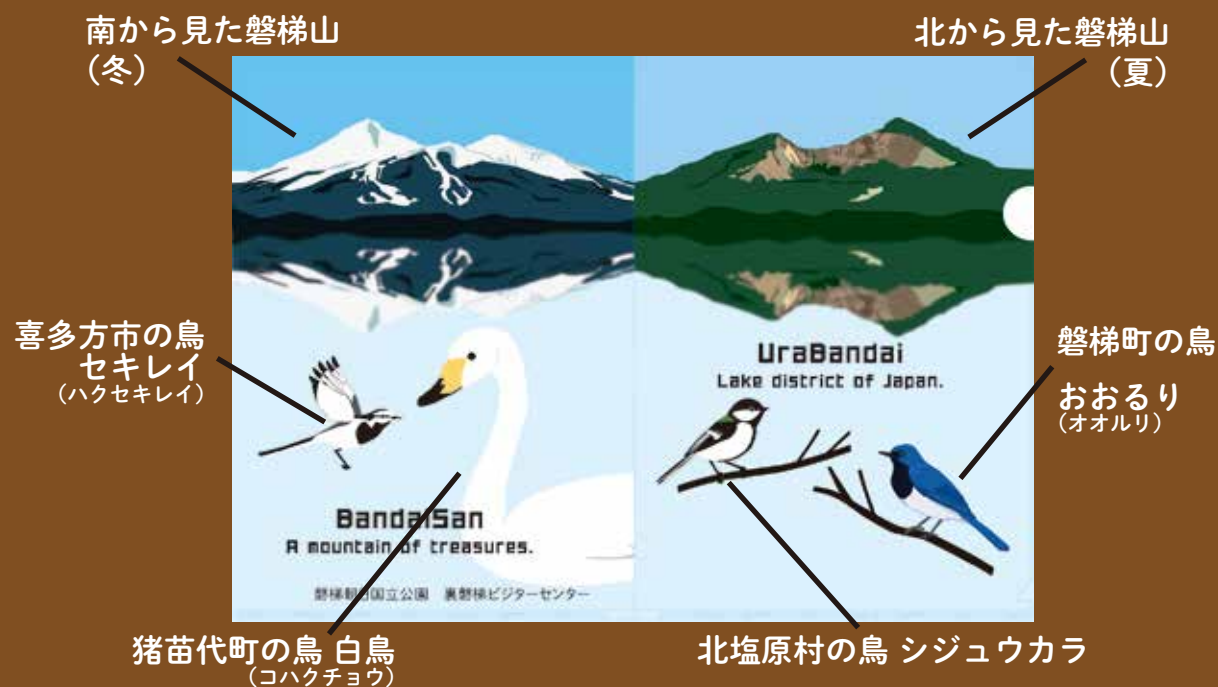
ようこそビジターセンターへ

ノベルティグッズの紹介

Welcome

裏磐梯ビジターセンターのリニューアルオープンを記念して、ノベルティグッズを作成しました！
ラインナップは、エコバッグ、ボールペン、そしてクリアファイルの3点。それぞれ環境に配慮した素材を使った、エコなグッズになっています。

なかでも注目は、廃米から作られた環境配慮型プラスチック製のクリアファイル。
なんと、ほんのりお米の香りがするかも…？



クリアファイルには、夏の裏磐梯側から見た磐梯山と、冬の猪苗代側から見た磐梯山が描かれています。その風景の中には、裏磐梯ビジターセンターと関わりの深い4市町村の「市町村の鳥」たちも登場。いずれもビジターセンター周辺でも見かける、身近な野鳥たちです。

ビジターセンターで情報収集をしたあとは、この4種の鳥を探しにフィールドへ出かけてみてはいかがでしょうか？

今後もイベントを企画中！

裏磐梯ビジターセンターではGWや夏休み、紅葉シーズンに冬休みと
季節に合わせたイベントを開催予定です！

日付が近くなってきましたらHPやSNSでお知らせしますので、
ブックマークやフォローをして続報をお待ちください！
皆様の参加お待ちしております！

くわしくはビジター
センターのHPで
順次お知らせします

磐梯朝日国立公園 裏磐梯ビジターセンター

〒969-2701 福島県耶麻郡北塩原村大字松原字剣ヶ峯 1093-697
【電話】0241-32-2850 【FAX】0241-32-2851 【ウェブサイト】<http://www.urabandai-vc.jp/>
裏磐梯だより 特別号 【企画・発行】裏磐梯ビジターセンター自然体験活動運営協議会



HP



X



Instagram

裏磐梯だより

No. 特別号

2025年4月18日



磐梯朝日国立公園

裏磐梯ビジターセンター



「裏磐梯ビジターセンター」

福島県・山形県・新潟県にまたがる磐梯朝日国立公園
その中の裏磐梯や磐梯山周辺エリアの自然を楽しむための
情報提供やプログラムを行っています！
近くにお越しの際はぜひお立ち寄りください！



裏磐梯図鑑 No.43

裏磐梯の大自然

自然解説員の巡視日記

おすすめの探勝路

ようこそビジターセンターへ

ノベルティグッズの紹介

裏磐梯には桧原湖や五色沼湖沼群など、多くの湖沼が点在し、ウォータースポーツやその美しい景色で訪れる人を魅了します。これらの湖沼がいつ頃できたのか、ご存じでしょうか？ 実は意外にも、比較的最近のことなんです。

1. 裏磐梯はこうしてできた

1888年7月15日 裏磐梯の景色は一変しました。それまでは長瀬川とその支流が作る溪谷が広がっていましたが、この日、水蒸気噴火※により磐梯山の山頂の一つ「小磐梯」が崩れ、溪谷を埋め立ててしまったのです。

堆積した土砂は高原を作り、せき止められた川は湖沼を作りました。今は美しいばかりの裏磐梯の景色は激しい自然災害によって作られたものだったのです。



2. 裏磐梯の自然

災害の直後の裏磐梯は草木のない荒地となっていました。そこからおよそ140年の月日がたち、裏磐梯は自然あふれる土地になりました。

自然は回復しましたが、日本の多くの場所にある何千年もの歴史のある森林と比べると、裏磐梯の森林は、まだまだ若者の森林で、その特徴を至る所で見るることができます。

シロヤナギやハンノキといった明るいところを好む樹木や、その樹の葉や実を食べる蝶や鳥などは、裏磐梯を代表する生きものといえるかもしれません。



国立公園というと「自然を守るために制限されることが多い」なんてイメージを持たれている方が多いと聞きます。実際やってはいけないルールとマナーはありますが、それは将来にわたって多くの方が国立公園の自然を楽しむためのルールです。次に訪れる方が自分たちと同じように楽しめるよう、ちょっとした気遣いを持ちながら自然に親しんでみてください。

※水蒸気噴火…地下水などが急激に温められ爆発的に噴出する噴火、マグマが地表に出てこない。

3. 磐梯朝日国立公園

そんなちょっと変わった自然がある裏磐梯は、「磐梯朝日国立公園」という国立公園の中にあります。

磐梯朝日国立公園は日本で3番目に広い国立公園で、①出羽三山・朝日、②飯豊、③磐梯吾妻・猪苗代と、大きく3つの地域に分かれています。どの地域もそれぞれの魅力がいっぱいですので、ぜひ尋ねてみてください。

また、日本には35の国立公園があります。裏磐梯をきっかけに、身近な国立公園にも足を運んでみては如何でしょうか！？

遠藤現夢翁の植林事業

荒地の裏磐梯の自然を再生させようと植林事業を行った人がいました。会津若松の遠藤現夢という人です。日本初の林学博士である中村弥六氏に助言をもらい、アカマツを中心におおよそ10万本もの苗木を植林し、裏磐梯の緑化を成功させました。

おすすめの探勝路

裏磐梯にある23の探勝路。五色沼の散策から磐梯山の登山まで、難易度は様々です。今回は初心者でも楽しめるお手軽ルートをご紹介します。

1. 五色沼自然探勝路

まずは有名な「五色沼」からご紹介します。勘違いされがちですが、「五色沼」とは一つの沼の名前ではなく、複数の沼をまとめた総称で、正式名称は「五色沼湖沼群」。探勝路は東西に約3.6km続く一本道で、舗装されていない土の道を歩いて進みます。そのため、雨の日や雪解けのシーズンはぬかるみに注意が必要です。

出入口は東側の「裏磐梯ビジターセンター」(バス停：五色沼入口)と、西側の「裏磐梯物産館」(バス停：裏磐梯高原駅)の2か所があります。お車でお越しの際は、片道をバスで移動してから散策する「バス＆ウォーク」のスタイルがおすすめです。

2. レンゲ沼・中瀬沼探勝路

次にご紹介するのは、桧原湖の東側にある探勝路です。「レンゲ沼探勝路」は、レンゲ沼の周囲をめぐる道で、軽く舗装されており、とても歩きやすいコースです。

レンゲ沼では、さまざまな水生植物や水生昆虫が観察できるため、生き物好きにはたまらないスポットとなっています。

一方、「中瀬沼探勝路」は、小高い丘を登る短めのコース丘の上からは中瀬沼を見下ろすことができ、晴れた日には木々が茂る小島と水面が織りなすモザイク模様のような中瀬沼越しに磐梯山の雄大な姿を望む絶景が広がります。

3. 小野川不動滝探勝路

最後にご紹介するのは、落差25mの大きな滝を目指す「小野川不動滝探勝路」です。この探勝路は、不動尊を祀る参道をたどるルートで、急な石段を登る箇所があります。

そのため少し体力が必要ですが、距離自体は短く、目的の小野川不動滝を目の前に望む橋に立てば、漂うしぶきでとても涼しく、疲れも吹き飛ばすこと間違いなしです。

どの探勝路にも言えることですが、雪が積もる冬のシーズンはしっかりと準備が必要です。

気軽に楽しめるグリーンシーズンに裏磐梯の探勝路をめぐって、自然の魅力をたっぷり味わいましょう。

